

# 日本の安楽死問題と死の自己決定権に関する考察

日本において、安楽死を法律で認めるべきだろうか。現在日本では安楽死を明確に認める法律は制定されていないものの、安楽死に関連する事件が近年増加している。

そこで本論文では、日本において安楽死が合法化されるべきなのかについて検討する。そのため、まず日本における安楽死の先行研究と概念について整理し、その後、安楽死にまつわる論議の推移を確認することで安楽死に対する国民の意識の移り変わりを分析する。また、安楽死にまつわる過去の判例に言及し、現状の課題点の検討を加える。

さらに、日本人の死についての文化的思想とそれに基づいた制度について検討し、安楽死の現状について考える。これらの問題を検討する上での根源的な問題として、本論文では日本独自の宗教観や家族観についても言及する。加えて、安楽死問題において重要な自己決定権についての日本での認識や価値観の整理を行い「患者の明示の意思」の認定方法を探る。最後にこれらの議論をすべて踏まえたうえで、安楽死が今後日本において法制化される可能性について私見を述べることにする。